

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871700676		
法人名	医療法人社団うしお会		
事業所名	グループホームおのころ		
所在地	兵庫県南あわじ市八木寺内1140-6		
自己評価作成日	平成29年4月10日	評価結果市町村受理日	平成29年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成29年4月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境、立地条件にあり四季を感じながら穏やかに過ごされています。当施設の理念、方針に沿ったご本人の思いや気持ちを尊重しその人らしい生活が出来るような支援、サービスを心掛けています。家族会等も開催し入所者様のご家族同士の交流も回り、遠足等外出も増やし、籠もりがちな生活にならないよう努力しています。食事手作り基本とし入所者の皆さんとおやつの手作り等作る事も楽しんで頂いています。職員と入所者はお互いに信頼、尊敬し寄り添い、いい距離感で接しています。認知症の進行、身体的重度化の介護が求められている今、グループホームの良さである家庭的な環境での介護を見失わないよう頑張っています。

地域医療に貢献している医療法人が母体で、急変時に迅速な対応がなされる事が強みである。手作りで産地の食材を活かした真心のこもった食事が提供され、利用者にとっても喜ばれている。利用者の個々を大切に、馴染み易い雰囲気、環境、対応を職員で考え実践している。職員の自己研鑽意識も高く、介護福祉士取得者も多く質が高い。職員が、個々の施設介護計画に携わることが、職員のスキル、気づきを促し意識向上となっている。認知症の進行や重度化が進む中、地域のイベント等に参加する支援の実践から、その人らしい人生に寄り添う支援を行っている。今後は地域の高齢化が進む中、地域福祉や防災、認知症支援を発信し、地域に頼まれる更なる事業所の働きかけに期待したい。又、事業所での重度化が進む中、更なる医療との連携と、個々のニーズに応じた安心出来る支援体制に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	-1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に誰もが分かるように見えやすい所に掲示しており、入所時は、ご家族にも分かり易く説明をしている。 職員は常に理念を念頭に置き、毎朝、行われる申送り時に職員が理念を合唱し、理念に基づいた目標を掲げ実現できるよう実行している。理念は法人全体の理念で基本方針は施設独自の者であり理念と同様に考えている。	理念を基に、地域から親しまれ信頼される施設運営を目指し、実践している。職員は毎日、理念を唱和する事で理念に立ち返る事を意識して行動している。理念以外にも職員が日々、利用者本位の介護を支援出来るよう事業所独自の心得を作成して、職員の目に届く場所に掲示している。	
2	-2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常の挨拶はもとより、町内会、婦人会学校、幼稚園、地域のボランティア等、各種団体に施設を来訪して頂き、地域のお祭りや住民大会等の催しにも参加させて頂き、交流させて頂いている。今後は部落単位はもちろんだが地区単位と広げていきたい。	近隣の農家の方々から野菜を差し入れてもらう等、交流が深い。他事業所や幼稚園、老人会、町内会などと積極的に交流し地域に根付いた施設を目指している。管理者の熱心な働きかけで、他地区の老人会イベントにも利用者と共に参加して交流する地域が広がった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には事業所での行事に参加して頂き施設を交流の場として解放し気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。また、地域の老人会等の集会に参加し、施設や認知症の方々への理解を求め説明している。高齢者への介護面においても相談を受けたりと対応を図っている。	/	/
4	-3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、運営等の近状を報告して、話し合いを行い、地域の方々の意見を真摯に受け止めている。ご家族さまにも参加していただき、年に一度ではあるが家族会で状況を報告している。老人会や住民会の方々とも連携を密に情報提供や災害時の避難場所の提供など協力体制を依頼している。近隣の地区の役員を通じて、施設の存続意義を深めるため、気安く立ち寄って頂けるよう声を発信している。	参加者は固定されているが、利用者の家族や利用者も複数人参加し、開放された運営推進会議となっている。利用者の日頃の様子や施設運営状況以外にも防災意識を高めたり、イベントの連携、疾病や認知症の講話等が話し合わせ、サービス向上に繋がっている。会議の機会から、地域のだんじり祭り時に事業所前までだんじりが来てくれる事となった。	
5	-4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市庁の担当者とは常に連携を密にしており、意見や指導を受けております。施設として、指導内容には、積極的に改善や調整を行っています。わからないこと等常に相談している。	市の担当者には業務や制度について相談する事が多い。積極的に連携をとる事に努めている。グループホーム連絡会を立ち上げたが、今後も市の担当者や他事業所と連携し連絡会がしっかりと例会になるよう働きかけて行きたいと考えている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	-5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設近郊は農業地区であり用水路が多く、また、国道28号に接していることから交通事故について懸念される。近郊での発生しうる事故を配慮し、利用者への安全上、やむを得ず施錠(玄関・裏口)を行っている。ご家族様方々にも、近郊周辺の状況から危険性を伝え、了解のもと、行っている。利用者の人権を常に考え、身体拘束に至らないよう、その都度細心の注意をしている。年間の施設研修会においても身体拘束を取り上げ、人権についても日々のケアの中で気をつけ理解を深めている。	定期的に研修の機会を設け、身体拘束が不適切な行為という事を職員間で話し合い意識を高めている。利用者にあった言葉かけを行い利用者への感謝の心を忘れず、スピーチロックが起きないようにミーティング等で職員間で注意し合っている。安全や家族の要望で、施設の出入り口のみ施錠を行っているが外に出たい利用者には付き添い散歩に出かけている。	出入り口の施錠について十分な検討を行い、短時間でも施錠しない時間を設けてみてはどうか
7	-6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてはミーティングや勉強会、研修等に参加し学んでいる。ホーム内では身体的、精神的、言葉による虐待等にならないよう細心の注意、監視を心掛け、行われぬよう努めている。現在まで虐待又はそれに準ずるような行為もおこなわれていないが気づかない言葉が傷つけているかも知れないので今以上の注意を心掛けている。また、やむを得ず他の利用者にも暴力や危害等のおそれがある場合は、その家族の方と話し合い、理解を求めて納得の上、一時的に対処させて頂いている。	利用者の尊厳が守られるよう、定期的に虐待について学びの場を設け介護方法、言葉かけの工夫を考え虐待防止に繋げている。管理者を中心に認知症を正しく理解し心理的症状等で職員がストレスを溜め込まないよう、何でも相談出来るよう声をかけ合っている。	
8	-7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の関係文書を随時、職員が閲覧できるようにしており、必要に応じ研修会を行い理解を深めている。家族会を通じて話し合い、説明を行い互いに理解を深めている。	現在、後見制度を利用している人はいる。職員は家族からの相談に対応出来るよう、内部、外部等の研修で成年後見人制度を学んでいる。家族会に於いても制度の説明を丁寧に行っている。日常生活自立支援事業の利用者はいない。	
9	-8	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には契約書、重要事項説明書を、十分な時間をかけ、納得がいかれるまで説明している。書面上においては、利用者・ご家族様の同意を得ている。施設運営必要経費の変更等では、法人内部での調整を行い、物価や行政指導等も踏まえて説明し、理解を求め、了解を得ている。利用者の症状の重度化に対しても、現状説明や話合いを儲けて理解・納得を図り、最善のケアが出来るよう行っている。	契約時には、十分に時間を設け、医療連携、費用、事業所の方針を説明し利用者の状態や家族の意向を汲み取り納得を得ている。自宅へ訪問し住環境の把握に努め、利用者の環境変化に配慮した環境づくりを志している。看取りについて同意書に基づき出来る事、出来ない事を丁寧に説明し終末期においての要望を聞いている。	

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	-9	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会(1回/年)、家族来園時など、また苦情・意見箱等による意見収集に努め、意見がある場合には、施設全体で協議し対応を図っている。 また、来園時には、意見(要望)を言って頂けるよう家族・利用者への配慮も心がけている。 なお、ご要望や面会時での要請などがある場合は、その都度話し合い、運営に反映している。	遠慮して意見が言い難くならないので、積極的に家族会への参加を促し、要望を聞く事と、アンケート等で意見を収集し運営に活かしている。 食事のメニューは利用者の嗜好や家族からの意向も汲み取っている。家族の意見から個人情報に配慮し、個別の面会表を作成するなど、意見を運営システムに反映させた。		
11	-10	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員から意見を述べられるよう、ミーティング時やそれ以外にも機会を設けており、その都度、報告・相談が行われている。 その都度、全体へ周知にも配慮し記録簿を設けている。 各職員への周知等を目的に小グループに分け、各リーダーを設け、密に情報を吸い上げる体制作りをしている。 小グループに分けて行う事で、リーダー職員の育成にも配慮している。	管理者は職員からの意見や工夫が出易くなるよう、日頃から声をかけ個別に意見を聞いてい運営に活かしている。十分なミーティング時間を設定し、職員のアイデアや気づきから利用者に喜ばれるイベント等の企画が行われている。希望休等にも配慮し職員の満足度が高まる職場環境を図っている。介護福祉士取得者も多く、職員のスキルアップへの意識も高い。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い職員個々の技能及びがんばり具合について把握し、出来るだけ昇給、賞与等に反映出来るように法人役員と話している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修やリーダー研修をはじめ各種団体が主催する勉強会(嚙下、介護等)法人内の勉強会(医療、リハビリ等)にも参加している。 参加は自由であり、本人の希望に添うようにしている。 研修後は、報告書等により学んだ知識の共有をしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者相互間での職員の研修や勉強会等をさせて頂き知識、技術など質の向上に共に努めている。 同業者合同での行事の開催等、地域の人も含め交流の機会を作っている。 島内の関係施設間での見学や会合を設け繋がりに努めている。リーダー研修や実践者研修の実務の受け入れ等も積極的に行っている。			

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期対応の対応の重要性は理解しており、細心の注意を払い、入所前に、ご本人やご家族とお会いする機会を出来るだけ多く持つようにしている。 ご本人の今までの生活歴や希望等、急かすことなく知る機会をもって、本人の気持ちを大事に受け止めてゆく努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前よりインテークを重ね、施設見学や施設の方針、ご家族の思いを聴きいれ不安や心配事、疑問点など話合うことで、不安等を取り除くことに努めている。 ご家族と共にご本人の思いを受け止め安心が出来るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の生活歴を踏まえ、今、何を必要しているかを、ご本人の思い、家族の思いや、周辺環境も考慮し必要な支援を見極め、関係機関等との調整を含め適切且つよりよいサービスが出来るように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方は人生でも先輩であり、教えて頂くことも多く尊敬の気持ちをもって接している。 介護面では、その人の思いや要望を理解できるよう努め、その人らしく生活が営めるよう努め、職員、利用者の相互関係を深め、信頼関係が構築できるよう行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・本人・施設職員との三者間がお互いのパートナーであるよう心がけ、家族の思い、本人の思いを尊重し受け止め、本人と家族の絆を大切に不安や心配事を一緒にうけとめながら互いの関係が維持できるよう努力している。		
20	-11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人、友人等の訪問は自由であり、外出外泊においても自由である。 一応、面会時間は定めているが、その都度、柔軟に対応出来るよう努めている。 又、馴染みの場所や馴染みの人と外出が出来るよう協力を得つつ支援している。	利用者の知人や友人が事業所に訪れ、入所前と変わらない関係が継続されている。馴染みの場所へドライブに出かけたり利用者の大切な思い出に寄り添う支援を行っている。事業所から積極的に調整を行い、正月等には自宅へ帰り家族との時間を過ごす事も多い。地域のふれ合い喫茶に出かけ新たな交流機会となっている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が自由に居室を出入りしたり、語り合ったり、一緒にテレビを見たりできるのが理想ではあるが認知症の進行に伴い出来ない状況になってきているが作品を一緒に作ったり、体操や、散歩等出来るだけコミュニケーションを図り孤立化しないよう手助けしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方にも気安く訪問して頂いたり、行事にも参加して頂いたり、ご家族とも関わりを持ち、良い関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	-12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の今までの人生感、価値感、生き方等を理解把握した上で、現在でのその人の思いや希望を把握し取り入れているが困難な場合はご家族等の意見も聞き、且つ、ご家族様への協力も依頼してできるだけ希望に沿えるようにしている。	今まで歩んで来た人生を尊重し、利用者本位の生活が送れるよう、信頼関係を深め、日常会話や表情から希望や意向を把握している。生き甲斐や活動が継続し穏やかに生活出来るよう職員間で話し合っている。意向の把握が難しい方には家族の協力を仰ぎ意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、本人やご家族から今までの生活歴、人生観、暮らし方、環境、医療など詳しく聞き把握している。入所前は、自宅訪問をさせて頂き、今までの生活を見させていただいている。 入所後も、ご本人の生活から情報を集めるよう心掛けサービスの利用の経過についても、ご家族、本人、担当ケアマネージャーに情報を提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が日々、利用者一人ひとりの心身状態を記録し、職員全員が把握している。 各利用者が個々の過ごし方や状態を把握確認しながら、その人らしく過ごせるよう、また、有する能力が発揮できるようにも努めている。 、利用者一人ひとりが穏やかに思う様に過ごせるよう努めている		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	-13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の心理的、身体的な些細な変化を見逃さず、その都度適切なサービスが提供出来るよう、モニタリングや家族、職員等、必要な関係者(Dr)トカンファレンスや担当者会議を開き、ご本人の現状にてきたその人らしい生活が出来るような介護計画を作成している。モニタリングの経緯も記録しより現状に即した介護計画を目指している。	介護計画の原案作成を職員が積極的に携わり、課題や要望、状態の変化をプランに活かし、その人らしい生活が送れるプランが作成されている。家族や医師からも意見を仰ぎ、プランの見直しに意見が取り入れられた計画がなされている。モニタリングは日々の実践や観察内容を職員間で共有し、職員の気づきや意識の向上にも繋がっている。	電子媒体と紙媒体で帳票を管理しているが、計画書の整理、保管方法を検討し、活用し易いよう工夫してみてもどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの介護記録には、日々のバイタル、ケアの内容、その日の心理、健康、生活状況、改善すべき点等が記載されており個人の状態が把握出来る。その記録内容から、各利用者が、その人らしい生活が送れているか見直し検討を行い、適切な支援が提供出来るように努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設サービスの枠にとらわれずに、家族・本人への想い希望を取り入れている。利用者個々のニーズに対応できるよう柔軟に多方面にも対応出来るよう努めているが、職員の人員やハード面で出来ないこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の各種団体(老人会、消防署、警察、民生委員、幼稚園、小中学校等)と連携を取り、多方面での協力体制を得ている。地区での運動会や文化祭、清掃作業などに参加したり、慰問などを受けている。		
30	-14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、ご家族の希望を尊重しており、入所時に合意している。受診時は必要に応じて、ご家族と共に定期的に職員も受診に付き添い、医師に症状の説明等をしている。	利用者や家族の希望を尊重しながら、受診支援を行っている。これまでのかかりつけ医を利用している人もおり、24時間相談ができる。多くの利用者は母体病院に受診している。外来看護師が訪問看護も兼務しており、情報の共有ができ、連携が円滑におこなわれ職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院と医療連携が出来ており、2回/週の訪問看護が実施されている。利用者の健康管理、医療相談、急変時対応等と病院との連携が出来ている事で、適切な受診、看護が受けられる体制が出来ている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	-15	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供は勿論のこと、環境の変化に順応し難いため、職員が面会や付添い等出来る範囲の対応を図り、安心出来るよう行っている。 家族、主治医、ともに連携を取り、早期回復、退院できるよう支援している。 協力病院が当ホームの母体法人であり、医療連携も出来ており協力関係、意志の疎通も出来ている。	入院による不安やストレスを最小限にするために、日頃の心身の状況やケアの方法など情報提供を行っている。また家族や馴染の職員が毎日面会に行っている。この1年間で入院もあったが、家族や地域連携室、主治医と相談しながら、事業所に対応可能な時点で、なるべく早く退院できるように支援を行っている。	
33	-16	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関しては利用者、ご家族、医師とよく話し合いよりよい方向を検討している。 介護で支援が出来る重度化に対しては、出来る限り対応している。 常に医療を必要とする重度化に対しては、常勤看護師や医療的な設備も整っていない為、現在の環境では無理であるが重度化対応がいられている中今後の大きな課題である	開設13年目を迎え、徐々に重度化しており、急変時対応の意向を文書で確認している。この12年間で看取りの経験はないが、事業所での看取りを希望する家族が多い。重度化した場合、同一法人の特養や老健に紹介する場合もあり、家族の安心は得られているが、今後看取りも課題の一つで他事業所の見学を予定している。	家族の希望もあることから、隣接する母体病院や在宅主治医の理解や支持を得ながら、勉強会を重ね職員の不安の軽減を図ることから始められてはどうか
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年/回、消防署救急隊員による講習を依頼し実演と講習会(心肺蘇生法、AEDの使用法、嘔下、窒息時の対処法等)を行っている。 淡路広域消防事務組合主催の応急手当普及員講習会にも参加し職員個々の実践力を身につけている。 また、応急手当普及員更新講習会へも参加している。		
35	-17	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防、避難訓練を行い、内1度は、消防署職員の指導を受けている。 関連施設にも参加して頂き、共に訓練活動の向上を図っている。 地域推進会議にて地域との協力体制も依頼している。	年2回夜間想定した避難訓練を実施している。初期消火失敗を想定して訓練を行ったが、まず利用者を短時間で避難させる事を最優先にと指導を受ける。利用者や地域住民の参加はないが、見守りや地区消防団の応援や用水路の水の使用など協力体制は確認できている。	住民参加を今後も運営推進会議などを通じて働きかけを継続していただきたい。また参加できる利用者から訓練参加を検討して欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	-18	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーを尊重し、一人ひとりの性格等にも理解を深めている。 また、不快感を感じさせないよう利用者一人ひとりの対応に心掛けている。言葉遣い、声掛け等上から目線になっていないか、特にトイレの声掛けなど周りに気を配るよう、居室に関しては監視されているような雰囲気を感じさせないよう気を付ける	今まで出来ていたことが出来なくなっても、利用者寄り添い、その人のペースに合わせ、その人らしい尊厳ある姿を大事にしている。特に排泄時や入浴時の声かけには細心の注意を払っている。個人情報や記録物は鍵のかかる保管庫で管理し、情報が漏れないよう周知徹底している。	



自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の希望や意思の決定が言えるように個々の表現や表情にも配慮し、選択が得れるよう、絵やカードなど用いて工夫している。 本人の性格や想いを理解し自己決定ができるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の今までの生活ベース、習慣を尊重し、職員の都合を優先しないよう注意しています。 時間にもあまり制約されず、各利用者の気分や、希望、状況等に応じ出来るだけ添えるように支援している。 また、利用者個々のペースに歩み寄り穏やかに過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	TPOに応じた服装、お化粧、時にはマニキュアなど本人の希望に応じるようにしている。 理美容業者の方が施設に訪問、パーマや毛染めなど、ご本人の思い通りの髪型やおしゃれを楽しまれている。 また、行き着けの美容店を利用される際は、ご家族や職員が付き添っている。		
40	-19	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューでは、個人の嗜好を聞き、献立し、食材も季節感を取入れ提供している。 メニューによっては、一緒に料理をしたり片付けを行っている。 誕生会等の行事では、本人の好物を提供し、皆さんと共に食事会を開いている。 手作りの料理を基本としインスタントや冷凍食品は出来るだけ使わないよう心掛けている。	利用者の重度化から多忙になり、給食に移行した経緯もあるが、手作りが食べたいと利用者の声に答えて現在がある。地元でとれた新鮮な食材で、季節感のある食事が提供され、職員とお喋りしながら楽しそうに食事している。誕生日には、利用者が得意とする餃子やおはぎ、たこ焼き、グラタンなど作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分量をチェックしており体調不良時などは状況に応じて食事の形態、量、食材、水分等に細やかな配慮を心掛けている。 利用者が、いつでも自由に飲めるようお茶、水、ジュース等を常備している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後就寝前には必ず口腔ケアを促し、出来ているか確認している。 自己にて出来ない場合は、職員が介助している。 義歯は職員が毎日、預かり洗浄、消毒をしている。		
43	-20	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	殆どの方はトイレ誘導や一部介助が必要である。 パットを利用し、尿意のある人には、その都度付き添い介助を行っている。 失禁時には不快感、プライドを傷つけない様さりげない気配りをし陰部の清潔に心掛けている。 夜間排泄介助では、良眠を妨げないよう配慮している。 自己にて排泄できる方にもそっと、さりげなく見守り、失敗時もすぐに対応出来るよう心掛けている。 各利用者の排泄パターンやペースを把握し、その都度付き添い介助等の対応を図っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を基本としている。職員がオムツを使用して、羞恥心や不快感、尿がなかなか出ないなどを体験しケアに反映している。陰部の洗浄を行い清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、日々、記録確認して各個人の排便パターンを把握、便秘にならないよう水分補給、食材の工夫、適度な運動等を促し快便になるよう努めている。 また解消されない場合は医師と相談し、薬等の指示を受けている。		
45	-21	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日時、時間は1F,2F交互にと決まっているが、利用者の心身状態や外出等の場合、希望に応じて毎日入浴したり、変更する事も可能である。 一人で入浴したい人には職員は外で見守り、必要に応じて介助している。	週3回1階・2階フロアのどちらかで入浴が出来る。羞恥心や負担感に対しては、無理強いせず同性介助やシャワー浴や足浴に変更している。入浴後は、ドライヤーで足を乾燥させてから靴下をはくなど白癬菌の感染にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転や病的なものに関しては医師と相談し対応を図っている。 眠れないときは無理強いせず職員と一緒にお茶を飲んだり話をしたり気分を和らげ自ら眠れるよう環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理簿を作成し、全職員が把握し、必ず服用確認をしている。 服用後の状態観察し、安全の確認に努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴にともない家事、園芸、洋裁、計算問題、クイズ、絵画等、個々にあった得意なこと、好きなことをして頂いている。 また、全体でのレクリエーションなどにより各個人の役割や仲間意識の向上を図っている。		
49	-22	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	日常の業務上にて、調整を図り出来るだけ個人要望に対応している。買い物や散歩、季節を感じて頂くようドライブなど希望を聞き出かしている。 普段行けないような場所でもご家族の方などの協力を得て出来る限り本人の希望を叶えられるよう支援している。最近では島外、お弁当を持っての外出おをしています。	お天気が良ければ、おにぎりやおやつを持って、海や山へドライブに出かけ、車の中で歌を歌って楽しく過ごしている。またショッピングセンターに出かけ、フードコートでアイスクリーム食べたり、コーヒーを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時や受診時には出来るだけご自身で支払ったりして頂き、釣り銭や金銭価値などを自覚して頂くようにしている。 只、金銭感覚に理解が困難な利用者も多く、職員が行うことが殆どである。 各利用者の預かり金については、金銭帳簿を作り、領収書を置き、その都度、家族への説明と報告を行っています。 また、利用者の必要物品についても、利用者からの依頼、要望等をご家族様に説明し、了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやりとりには全く制限はありません。 家族や大切な人との繋がりが途絶えないよう近況報告等を行っています。 手紙が書けない利用者へは、職員が代筆したり、手紙を読んで伝える等の支援をしている。		
52	-23	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が植えてあり、家庭菜園にはその季節の野菜を作っている。 ホーム内は落ち着いた色調であり南向きで窓も大きく、日当たりもよく明るい。 余り施設独特の幼稚な飾り付けはしていない。 共有スペースには、マッサージ機もあり、くつろがれている。 行事予定や日々の献立メニューなども掲示し、季節感を取り入れた物も置き、環境にも配慮している。	リビングの窓は広く、そこからは、ゆずるは山溪や田んぼが眺められ、自然や季節を感じる事ができる。1階の花壇には、ジャガイモや玉ねぎを植え成長を楽しみにしている。カウンターキッチンから昼食のいい匂いがしており、調理している職員と利用者の会話が弾み活気がみられる。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファがあり、テレビや新聞、雑誌等を置き情報や話題の提供を行っている。 カウンターでは、利用者同士や職員が会話できる喫茶コーナー的なところがある。 ウッドデッキのベランダは出入りも自由でありベンチも置かれている。 利用者はそれぞれ思い思いの場所でくつろががれている。		
54	-24	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、キャビネットは備え付けであるが木製の暖かみのある物を設置している。 個人差はあるが馴染みの家具や家族の写真、趣味の物、御仏壇など、今までご本人が使用していた物をもってきてもらい、変わらない生活を送って頂けるよう配慮している。	クローゼットは収納力があり、居室を広く使用できている。個人差はあるが、馴染の家具やテーブル、椅子、観葉植物、仏壇など置かれその人らしく暮らせる部屋となっている。清掃専門の職員がおり、掃除や整理整頓が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はすべてバリアフリーであり、階段、トイレ、浴室などには手摺が設置されている。 玄関もスロープが併設されており車椅子にも対応している。 歩行器、ポータブルトイレ等、利用者の状況に応じていつでも利用できる。 目線に「トイレ」等の表示をしたり、夜間にはトイレの室内点灯し、常時扉を開けて間違わないようにしている。 各自の居室には、本人が迷わないよう絵付きの表札を飾ったりドアノブに印を付けたりしている。 個人の理解力や身体能力に合わせて分かるよう常に心がけ、安心して生活が出来るよう工夫している。今年度は脱衣場に手すりを設置、立ち上がり安全に出来るようになった。他廊下にも手すりを増設、安全を図っています。		